

日本バスケットボール振興会の発足

—協力会から振興会へ—

振興会ニュース第1号

1993年7月

日本バスケットボール振興会

内容

○会長に就任して 岡本 元

○役員会の開催 ー新会長の就任と振興会の発足ー

1. 岡本元氏会長に就任

2. 日本バスケットボール振興会の発足ー協力会の名称変更ー

3. 平成5年度役員編成、その他

○日本バスケットボール振興会の役員・会員・客員の名簿

○'93春季懇談パーティ賑かに開催

ー旧交を暖め明日を語るー

○実業団バスケットボール協力会から

日本バスケットボール振興会への経緯

会長に就任して



日本バスケットボール振興会会長 岡本 元

今回はからずも、日本バスケットボール振興会の会長に選任されました岡本でございます。私の如きバスケットの経験も少なく全く素人の域を出ないものにとりまして誠に恐縮光栄に存すると同時に責任の重大さを痛感している次第でございます。

私も数年前からバスケット振興会の前身である協力会のメンバーに入会させて頂きバスケットの奥義をきわめられた諸先輩OBOGの方々が組織的に集い合い、日本のバスケット向上のために建設的な議論とひたむきな御努力を積み重ねておられるのに接し、強い感銘を受けておりました。

私は三菱電機にあって黒川義雄大先輩が築いてこられたバスケットチームを引き継ぎ二十八年間素人ながら面倒をみてきまして、お陰様で男女共に実業団日本リーグ一部に所属させて頂く迄になりましたのも、本会の諸先輩の方々の御教導の賜と考えております。

長年続いてきました伝統ある協力会の組織がより高次の目的を掲げて日本バスケット振興会と名称を変更してスタートすることになりました。バスケットも年を追うごとに全国、地方共に意識の昂揚、人口の増加、チームや試合の充実強化が着実に進んでいるように考えますが、日本における他のスポーツの展開と比較しました場合、現在バスケットボール界に課せられた課題は決して少なくはないと推察しております。

日本におけるバスケットに対する普及意識昂揚を一層はかりながら、日本全体の水準を引き上げ、アジアひいては世界に少しでも通用するためには我々としてどうすれば良いか、又そのために何ができるかを諸先輩の御高見を承わりつつ、真剣に模索してまいる所存でございます。

どうか、会員の皆様方、今後共、日本バスケットボール振興会の更なる発展と充実強化に対し従来以上に絶大な御支援を賜わりますと同時に、御懇篤なる御指導御鞭撻をお願いいたしまして御挨拶と致します。

'93春季懇談パーティ賑かに開催

—— 旧交を暖め、明日を語る ——

“バスケットを愛し、バスケットを憂う人達が一堂に会して、親しく話し合う機会を提供する”ことを趣旨として、昨年5月にこの懇談パーティを開いてから、今回で3回目となりました。

平成5年5月26日(水)、東条インペリアルパレスには、会員の方はもちろん、実業団・学連さらには協会関係の方々、約70名にご参加いただき、賑やかに開催されました。

バスケット界の大先輩や中先輩の方々、特に今回初めておいでいただいた方など、旧交を暖めつつ、話は日本のバスケットの将来へとはずみました。

ご出席の方は、いずれもバスケットについて豊かな識見や経験をもっておられるので、皆さんからお話を伺いたかったのですが、時間の都合もありまして、次の方々からご挨拶やお話を伺いました。

岡本 元、黒川義雄、牧山圭秀、山田光雄、稲垣安二、森沢誠一、関口荘次、松尾武司
(敬称略)



(なお、次回秋季懇談パーティは、11月10日(水)を予定しております。)

実業団バスケットボール協力会から

日本バスケットボール振興会への経緯

日本実業団バスケットボール協力会は、平成5年6月より、「日本バスケットボール振興会」に名称変更することになりました。これは、次のような経緯と趣旨によるものです。

1. 日本実業団バスケットボール連盟協力会の創設

日本実業団バスケットボール連盟を物心両面で援助するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的として、1978年(昭和53年)に「日本実業団バスケットボール連盟協力会」が設立されました。この協力会は、実業団バスケットに関係ある個人及び企業等の法人を会員とし、数年にわたり、日本実業団バスケットボール連盟への資金援助、実業団バスケットファンの拡大、会員懇親行事の開催など諸種の事業を行ないました。

2. 実業団バスケットボール協力会に改称

しかし、1988年(昭和63年)に、日本実業団バスケットボール連盟のもっとも重要な事業である“日本リーグの主管”が、日本実業団バスケットボール連盟から日本バスケットボール協会へ移されました。

そこで協力会は、1989年(平成元年)4月、それ以前のように日本実業団バスケットボール連盟を援助することだけを目的とするのではなく、広く実業団バスケットの普及発展に資することを目的とするように改め、名称も、“日本”と“連盟”を除き、「実業団バスケットボール協力会」に変更しました。また、会員も法人会員を辞退し個人会員だけで構成することにしました。

これにより、協力会の基本的姿勢は、日本実業団バスケットボール連盟を介して実業団バスケットボールを考えることから、連盟も含め広い視野から実業団バスケットボールを考えるように変わりました。

3. 日本のバスケットボール発展への提言

申すまでもありませんが、日本のバスケットボールの主力は実業団が占めておりますから、広い視野から実業団バスケットボールの普及発展を考えることは、とりもなおさず、日本のバスケットボールの普及発展を考えることになります。

そこで、1992年(平成4年)4月、協力会の事業の一つに“日本のバスケットボール発展への提言”を加えるとともに、名称に“日本”を加え、「日本実業団バスケットボ

ール協力会」に改めました。

そして、バスケット界の先輩である牧山圭秀・井上一男・稲垣安二・二宮正行の諸氏の御意見も伺いながら、日本のバスケットが久しくオリンピックへ参加できないでいることを憂い、1992年(平成4年)11月、公開座談会「オリンピックに出場するためにはどうしたらよいか」を、初めての試みとして開催しました。

また、同年の春秋の2回にわたり、先輩諸氏の御参加をえて“懇談パーティ”を開催し、日本のバスケット発展のための意見交換をしていただきました。

4. 日本バスケットボール振興会への改称

上記のような、協力会にとって新しい事業は、多くの方々の御協力により、一応の成果を収めることができました。しかし、オリンピック出場やバスケットのプロ化等の問題を含め、現在のバスケットの状況を考えますと、かかる事業はもっと活発に緊急に行われてしかるべきと考えます。そのためには、実業団とか学連とかの枠にとらわれず、バスケット界打って一丸となって、衆知を結集することが必要と思います。

しかし、今までそのような活動を展開する組織や機会がほとんどありませんでした。そこで、当協力会は、関係の方々の御意見や御要望も伺い、今までのバスケットに関する経験や識見を活用したり、新しいアイディアや意見を自由に出していただく場所や機会を提供できればと考えました。

そのためには、実業団に関係ある方はもとより、およそバスケットに関心を有し、日本のバスケットが強くなることを願う方々には、自由に参加していただけるように、名称を「日本バスケットボール振興会」と改めました。多くの方々に、この振興会に関心をもち、そして、会員も個人会員だけでなく企業等の法人会員を含め、積極的に参加していただきたいと思います。かくして、日本のバスケットの発展にいささかなりとも貢献できるならば、振興会にとって大きな喜びだと思えます。